ふるさとの昔話

安産と子宝を授ける
上和田の子安地蔵さん

▲上和田の子安地蔵菩薩像

赤いよだれかけをした、にこにこ顔のお地蔵さん、皆さんの近所にもきっとおられることでしょう。

このお地蔵さん、地蔵菩薩といってお釈迦様がなくなってから五十六億七千万年の後に、みろく菩薩様がこの世に現れるまでの間、人々の願いや苦しみを聞いて私たちを救ってくださるという有難い仏様なのです。全ての願い事を聞きとどけてくださるというので、各地に子安地蔵とげぬき地蔵などいろいろな名前をもった地蔵さんが祭られています。

今回は子どもを授け、丈夫に育ててくださる上和田の子安地蔵さんのお話です。

今から八百年ぐらい前、建久元年六月二十四日のこと。この年は長雨の年でした。そのころの富士川は加島平野を勝手に流れ、洪水になると潤井川の水と一緒になって和田川に流れこんできました。

上和田の東泉院（現在、東泉院はないが日吉浅間の付近）あたりの和田川は、この長雨で大水でした。お百姓さんは、この大水で田んぼが流されはしないかと心配し、田んぼを見るために本国寺の裏の橋までやってきました。そこでお百姓さんたちは、橋げたにかかった木の地蔵さんを見つけたのです。この地蔵さんを東泉院の別当（一番主な坊さん）に見せると「これは川上の地蔵さんに違いない。故郷へお返ししたほうがよい」との返事でした。いろいろ調べたところ、富士川上流、甲斐（山梨県）の村の地蔵さんとわかり、その村に返してあげました。

ところが翌年の洪水、それも同じ六月二十四日、所も同じ橋げたに、同じ地蔵さんが流れ着きました。驚いた人々は再び別当に相談しました。別当は「きっと、この地蔵さんは、この地で祭ってほしいにちがいない」とおっしゃいました。それでは、と甲斐の村にかけあってみたところ「お地蔵さんは、上和田がお好きにちがいない。そちらで祭ってくだされば幸せです」との返事がありました。そこで上和田の人々は東泉院の境内に祠を建てて祭りました。

それから幾日かが過ぎた晩、お地蔵さんが別当の夢枕に立ち「私は安産を守護する子安地蔵である」とお告げになりました。それで人々は、この話を聞き伝え、子安地蔵と呼ぶようになりました。

子宝が授かりました

竹田正子さん（25歳）と明香ちゃん
富士見台6丁目

私は流産しやすい体質らしく2回も流産してしまいました。子供が欲しかったので母の友人の紹介で知った、この子安地蔵さんにおすがりしてみました。そして子宝に恵まれ、10月31日、長女を無事出産しました。

表紙のことば
表紙で見たこの一年

月日の流れは早いもので、昭和55年の申年も、やがて暮れようとしている。いま、当市は「地方の時代」の夜明けといわれる80年代の都市づくりを「物の文化」と「心の文化」の調和に求めて、文化の香りづけをすすめています。

迎える昭和56年は酉年。目指す文化都市への道のりは、まだ長いが、21世紀に向けて、つばさを拡げ、飛躍の年にしたいものです。

発　行・富士市役所　富士市永田61－1　☎51－0123
編　集・行政管理部広報広聴課
人　口　208,925人　男 104,517人　女 104,408人
世帯数　58,013　（11月1日現在）